

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
平成29年度契約監視委員会（第2回）議事録

1. 日 時 平成29年9月20日（水） 13:30～15:30
2. 場 所 農研機構 特別会議室
3. 出席者 木村委員長、小林（保）委員、伊東委員
小林（一）委員、平田委員、小林（栄）委員

4. 議 題

- (1) 農研機構からの報告・提案
 - ① 前回委員会での要請に対する報告
 - ② 随意契約、一者応札・応募の点検数量について
- (2) 平成29年度第1四半期に実施した契約案件の点検
 - ① 競争性のない随意契約（104件）（平成29年4月～平成29年6月）
 - ② 一者応札・応募案件（44件）（平成29年4月～平成29年6月）
- (3) その他

5. 議事概要

上記議題について事務局からの説明後、点検が行われた。主な内容は以下の通りであった。

- (1) 農研機構からの報告・提案
 - ① 前回委員会での要請に対する報告
・特になしの旨報告した。
- (2) 平成29年度第1四半期に実施した契約案件の点検
 - ① 競争性のない随意契約
・競争性のない随意契約について点検が行われ、電話契約について、引き続き法人一括契約での一般競争への移行を検討するとともに、モバイル機器による通信の新しい仕組みもあるため、コスト削減の観点から一般競争入札の問題とは別に検討するよう意見があった。
また、競争性のない随意契約によらざるを得ない場合の事由及び区分の記載や電気料等の一般競争入札への移行に関して、内部の担当者間で認識を共有し、差異が生じないように内規や取り決め事項の周知徹底等、適正に対応するよう要請があった。
 - ② 一者応札・応募案件
・一者応札・一者応募に関して入札方法、不参加者へのアンケート調査、予定価格の積算などに関し点検が行われた。
点検の結果、試薬及び理化学消耗品の単価契約について、落札率にバラつきがあるため、積算に当たり参考見積書を適用する場合でも、これまでの実勢価格を踏まえてその妥当性を検証できるような方法を検討すべきとの指摘があった。
 - ③ 随意契約新規案件の事後報告
・事後報告3件の競争性のない随意契約について点検が行われた。

点検の結果、育成牛の購入契約について、購入する牛の条件等の特殊性はあるが、随意契約はできるだけ抑制する必要があるため、内容的に一般競争入札が可能なものは、できるだけ一般競争入札を検討すべきとの意見があった。

以 上